

農作物技術情報 第8号の要約

令和3年10月28日発行
岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技 術 の 要 約
水稲	技術対策 今年の栽培管理を振り返り、必要な技術対策を確実に実施したか、コスト面の無駄はなかったかなど、分析や検討を行う。
畑作物	生育状況 ：大豆は、青立ちや莢先熟が見られる。小麦の出芽、初期生育は良好である。 技術対策 大豆：莢先熟が生じている圃場では子実水分・茎水分の低下を見極め、速やかに収穫を行う。 小麦：除草剤を散布していない圃場は、小麦の生育や雑草の発生状況に応じて土壌処理剤を選択し、必ず散布する。圃場が乾いたら麦踏みを行い、凍上害や倒伏を回避する。
野菜	生育状況 ：果菜類の収穫は終盤となり、出荷量は少なくなっている。ねぎは順次出荷が進んでいる。ほうれんそうの生育は概ね順調。 技術対策 跡地整理 ：来年の安定生産に向け、栽培終了後は作物残さを適切に処分し、資材の消毒を行うなど病害虫発生源を排除する。 施肥管理 ：次年度作に向け、土壌分析の結果等に基づいた適正な施肥管理を計画する。 施設野菜 ：冬期間にかけて温度確保が必要となる施設野菜では、暖房装置の点検等を含めた省エネルギー対策を実施するとともに、作目の特性や生育ステージに合わせた適正な温度管理を行う。 寒じめほうれんそう ：ハウスの入口やサイドビニールを開放し、1週間程度5℃以下の低温に連続して遭遇させ、葉柄のBrix値8%以上を確保する。 促成アスパラガス ：根株は低温遭遇時間5℃以下90時間を目安に掘り取り、伏せ込み後の収量を確保する。
花き	生育状況 ：りんどう、小ぎくとも間もなく出荷終了。 技術対策 りんどう：残茎処理などの秋じまい管理を遅れないよう行う。 小ぎく：計画的な伏せ込み作業により、健全な親株を確保する。
果樹	生育状況 ：りんご「ふじ」の果実生育（横径）は、平年、前年より小さい。果実品質では、糖度は高く、硬度、デンプン指数は平年並、蜜入りは平年より少ない。 技術対策 りんご「ふじ」の成熟は、やや早いと予想されるが、蜜入りを待ち過ぎて収穫を遅らせると、貯蔵性の低下や裂果の発生、樹上凍結も懸念されるので、適期収穫に努める。
畜産	生育状況 ：三番草、飼料用トウモロコシは、ほとんどの地域で収穫が終了。収量は平年並み。 技術対策 牧草 ：翌年の良質粗飼料確保にむけ、秋の草地管理を適切に実施する。 家畜（子牛管理） ：秋～冬の寒さは子牛の発育に大きく影響する。休息場所を乾いた状態に保ち、保温と換気をしっかり行うなど、ポイントを押さえた防寒対策を実施する。

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>（「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます）

○農薬適正使用：使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

○9月15日～11月15日秋の農作業安全月間「全集中 ゆとりの呼吸で 安全作業」

次号は令和3年11月25日(木)発行の予定です